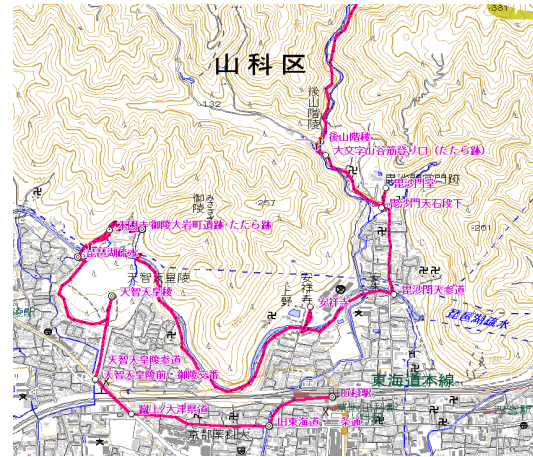


3. 疎水沿いの遊歩道を東へ 毘沙門堂・大文字山の登り口後山階陵周辺 古代のたたら跡へ



本園寺境内から南の琵琶湖疏水沿いの遊歩道に戻って、疎水沿いを東へ向かう。

この疎水のすぐ南側下には JRが走り、山科の市街地が広がっているのですが、喧騒からは無縁。緑に包まれた遊歩道が疎水の両側にあり、数多くの散歩やトレランの人たちとすれ違って行く。春には桜の名所として にぎわう散歩道であるが、いまは本当に静か。

ゆったりと流れる水面にあわせて ゆったりとした時間が流れる。こんなに静かな緑の散歩道だったのか・・・と多少驚きながら疎水ベリを通過して山科の毘沙門堂へ。毘沙門堂から大文字山の登山口にある古代のたたら跡を見て、そこから安祥川ぞいの谷筋を大文字山へ登る。

時間はもう12時40分 昼飯もまだ。あまり道草を食っていると大文字山で日が暮れるが、登れば後はよく知った道 まあ いいか・・・。



琵琶湖疏水に沿って、天智天皇陵の北側を通り抜け、張り出してきた枝尾根の先端を南から北へ回りこむ。すぐ下を走るJRの電車が見え、東に山科駅が見えているが、何かことは別世界。琵琶湖疏水はまっすぐ東西に山科を貫いていると思っていましたが、北から張り出してきた枝尾根の山裾を巡りながら東から西へ流れている。



疎水沿いから眺める山科の街 琵琶湖疏水がこんな高所を渡っているとは驚きです 2013.8.26.

山科駅西に張り出していた枝尾根を北に回りこみ、奥の山裾でまた東に方向を変えたあたりが安祥寺。疎水の北側に先ほど訪れた御陵大石町たたら跡遺跡から出土した鉄滓が保管されているという安祥寺が緑に包まれて、疎水の北側にあるが、残念ながら、安祥寺は門が閉じられていて、鉄滓を見学できなかった。



琵琶湖疎水 安祥寺周辺 2013.8.26.



安祥寺への橋周辺の琵琶湖疎水 2013.8.26.

安祥寺を過ぎて、また少し北の方へカーブしながら東へ疎水ベリを進むと疎水の北側に学校が見え、学校を過ぎると北側奥に山裾が延びていて、人家が見えてくる。この山裾の一番奥まったところが毘沙門堂である。

また、人家が見え出したところの山裾に沿って北から流れ下ってきた谷川が疎水の下を潜り抜けて南へ流れている。

地図によるとこの川が大文字山周辺を水源とする安祥寺川で、毘沙門堂からこの川が流れ下る谷筋を遡って大文字山へ登ってゆくことになる。ここまできると疎水の北側には安朱の集落が広がり、すぐ東には 毘沙門堂へ安朱橋が見えている。

安朱橋で疎水から離れ、橋を渡って、まっすぐ北へ伸びる毘沙門堂への参道を行く。

両側は閑静な高級住宅地の様で、大きな屋敷や洋館などしゃれた家並みが続いている



疎水の下を安祥寺川が潜り抜けて行く



北に安朱の集落が広がるとまもなく毘沙門堂への参道が渡る安朱橋 2013.8.26.



安朱橋から間すぐ北の山裾へ毘沙門堂への参道が続く 2013.8.26.

参道を北の山裾まで進むと正面に緑に包まれて、毘沙門堂の入り口となり、道は左へ曲がって山中にはいってゆく。

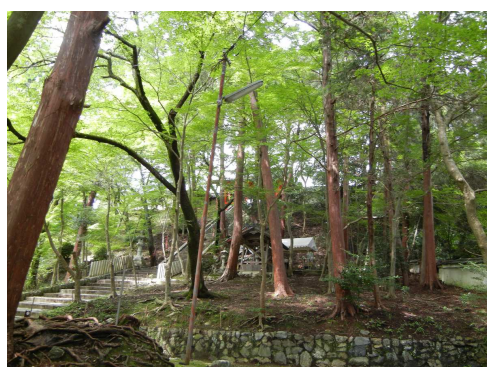
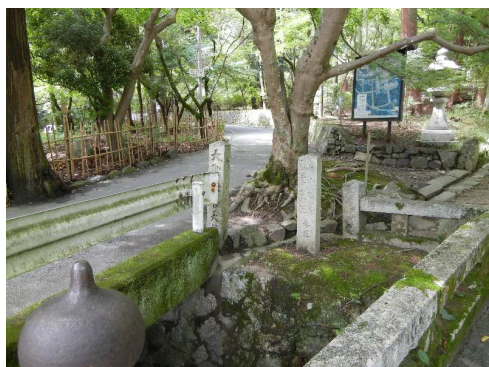
左の道の入り口には山科聖天参道の看板とともに 大文字山登山道・南禅寺方面の案内板がみえる。

毘沙門堂は右手の山の上にあり、急な石段が朱塗りの山門へと続く。また、道の反対側は小さな崖になっていて、少し奥へ経は行ったところで南側の尾根の山裾との間を流れる安祥寺川に沿う谷筋となって奥へと続いている。

時計を見るともう13時を過ぎている。あまりゆっくりはできないが、毘沙門堂に参って、参道横で握り飯をほうばって、大文字山登山道へ向かう。



毘沙門堂前 2013.8.26. 左の道をおくに進むと大文字山登山・南禅寺への抜け道



山科毘沙門堂と毘沙門堂前



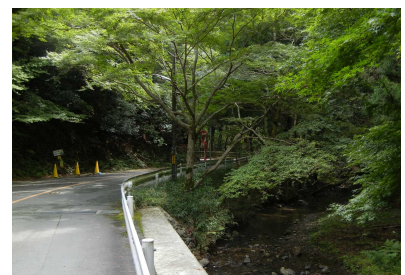
毘沙門堂前からさらに奥へ 大文字登山道へ 2013.8.26.

山科毘沙門堂と毘沙門堂前から谷筋を西へ南禅寺方面への抜け道 大文字山登山道もこの道を行く

お参りを済ませて、毘沙門堂左手の道を西へ入って行く。道のすぐ横には安祥寺川が流れる谷筋道で、道端にこれから行く後山階陵の古い案内板も見える。大文字山登山口・京都南禅寺へ通じている道ですが、すれ違う車・人もなし。静かなものである。

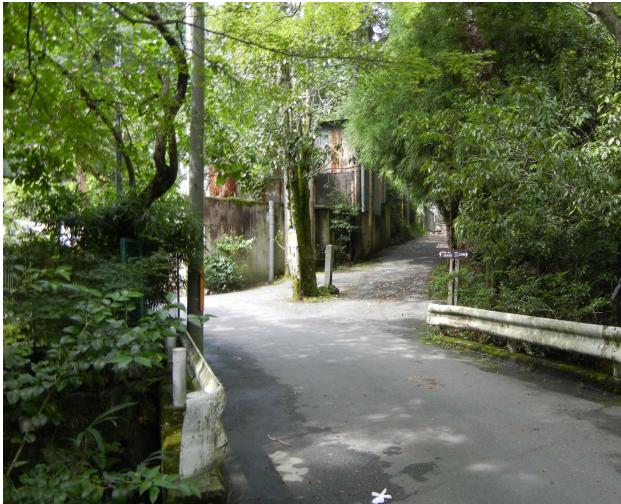


毘沙門堂から山科聖天前を経て 大文字山登山口(後山階陵)の別れへ 2013.8.26.



ゆるやかな谷あいの坂道を緑を楽しみながら登って、15分弱で、森の中に裏山を広い庭にして建つ大きな蕎麦料亭の前に出て、この前を通り過ぎたところで、北から流れ下る谷川沿いの山道とぶつかり、小さな橋を渡るとその道脇に大文字山登

山道の案内標識があり、「後山階陵・この付近たたら遺跡」と書かれた石柱が建つ谷の合流点。
大文字山へは車道から離れ、北への谷筋を登ってゆく。



この谷筋への入り口周辺が古代たたら跡とのことであるが、もうその痕跡は見られない
また、登山道左手階段上に、後山階陵があり、この御陵築造時にたたら跡は一部壊されているという

古代のたたら跡・後山階陵の横から谷に沿って登る大文字山登山口 2013.8.26.

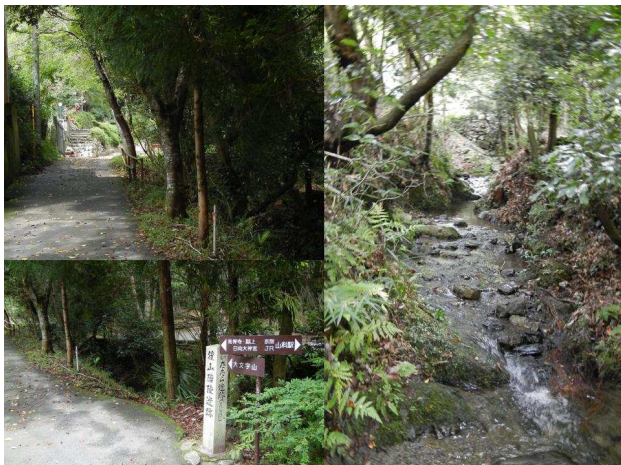
また、この北への登山道の左手の斜面の上にひっそりと後山階陵があり、この御陵で一部けづられていると資料にある古代のたたら跡が石柱の建つ登山道周辺。後山階陵にあがったり、横の谷川へ降りたりしましたが、6・7世紀の古いたたら跡で、その痕跡を見つけられませんでした。

でも この周辺は 先に行ってきた御陵大岩町たたら跡遺跡と同様
古代の鉄資源帯である花崗岩貫入接触帯である大文字山・如意ヶ岳
の南麓にあたり、山中にある鉄鉱石を使って製鉄を始めたイメージ
を膨らませる。おそらく渡来人鍛冶もこのたたらに加わっていたろうと。
大和の国づくりに大きな影響をあたえたという古代近江のたたら。
湖北古橋やマキノのたたら跡や瀬田丘陵の古代の製鉄コンビナート
は見学したのですが、資料ではおぼろげに知る大文字山・如意ヶ岳南
周辺にあるという如意ヶ岳南製鉄遺跡群(または逢坂山製鉄遺跡
群)。



今回この製鉄遺跡群に属する古代のたたら跡二つにやっと出会えました。この周辺にはまだ 幾つも鉄滓が散在する古代
のたたら跡があると聞くのですが、もうほとんどが山中にうずもれているだろう。
また、京都市内にたたら跡はないのか?? の疑問もやっとこの山科で終局です。

今日はここからまっすぐこの谷を詰め、古代の鉄資源帯を大文字山へ鉄資源帯の痕跡を探しながら登って、銀閣寺に下る。
緑の中 久しぶりに古代を感じながらの山科Walkでした。



後山階陵&たたら跡周辺 2013.8.26.